

「喉輪押し旋風」吹き荒れる

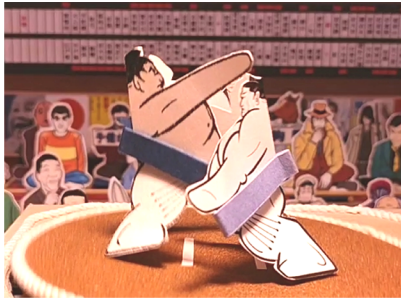
関脇菊千代、さあ大関獲りだ!

関脇菊千代が必殺「喉輪押し」を武器に九勝を上げ大関挑戦に名乗りを上げた。勝った九番すべてが「押し倒し」という、喉輪押しのスベシヤリストだ。千秋楽に関脇対決で瑠璃光に勝った菊千代は、支度部屋で開口一番「ベンジだよ」と声を上げた。

先場所も八日目に勝ち越しを決めたものの、そこから三連敗で結局六勝五敗に終わった。しかも千秋楽に勝てば受賞だった殊勲賞を瑠璃光にさらわれたのだ。今場所はそのうっづぶんを見事に返した形だ。

殺気を漂わせ、有無を言わず喉輪一本槍の荒々しい取り口に、「品がない」という声も聞かれるが、師匠の万寿山親方はこう語る。喉輪も相撲の手だよ。喉輪押しはどうしても脇が空くから失敗したら致命傷になる。言ってみれば諸刃の剣なんだ。それほど体が大きくない菊千代が上位を狙うために彼なりに磨いた技術。周囲の声に惑わされず自分の相撲を全部こらして欲しい。」

先場所は関脇で六勝で今場所が九勝。来場所の成績次第では大関昇進も十分あり得る。



八日目、横綱紫電改に勝利した関脇菊千代

また今場所は同じ部屋の大関岳(前頭四)も喉輪押しを武器に十勝を上げた。彼の場合は菊千代と違って、四つ相撲にも対応できる点で相撲に幅がある。

「天狗岳は組んでも離れても相撲が取れる。先場所は大きな相手には体力負けすることがあったが、今場所は相手によって喉輪を効果的に使っていた。好析の原因はそこだろう」と万寿山親方は分析している。

「兄弟子の活躍がすごく刺激になっている。喉輪についてもいろいろとアドバイスももらった」と天狗岳は手応えを掴んだように話す。来場所の三役入りは確定で、この調子が続けば大関獲りも夢ではない。

今場所吹き荒れた「喉輪押し旋風」。来場所も上位にとっては脅威になることは間違いないとぞうだ。



加古川風味

お茶漬け海苔

羅皇・駒響が横綱土俵入り披露

加古川紙相撲会館で横綱土俵入りを披露する羅皇(上)と駒響(下)



第十六回本場所初日、新横綱の羅皇と駒響の横綱土俵入りが満員の加古川紙相撲会館で披露された。「よしよし!」「日本一!」という掛け声がかかる中、二人は無難に土俵入りを終えた。

羅皇「どうだった? 自分ではまあまあだったかなと思っただけね。せり上がりの時にしっかり腰を落として、上体が前屈みにならないように注意した」

駒響「とにかく間違わなくて良かった。流れるような所作を意識して臨んだ。いよいよだなど気持ち引締めます」

先輩横綱の紫電改は二人の土俵入りについて「立派なもんだったよ。二人とも実に堂々としていた。羅皇はキビキビ颯爽としていて、駒響はゆったり自然体、ふたりの特長がよく出ていたよね」。

南の海理理事長「これで当協会も三横綱の時代が始まる。横綱の優勝が遠ざかっているが、今場所はやってくれるだろう。」

第十六回本場所後の決算報告で、文の里一門の荒戸部屋の手持ち資金が三百万円を割り込み、来場所の供託金支払いが不能になったことが判明した。ただちに荒戸親方(元小結大江山)が救済措置を申請し、一門は所属する三部屋から計六百万円を支援することが決定した。

荒戸親方は責任を取って師匠の座を退き、部屋付きの岡の国親方(元関脇玉風)と名跡交換を行うことが発表された。

荒戸親方の話「このような事態となったのはすべて師匠である私の責任。力不足で申し開きのしようがない。一門には深く感謝している。今後は新しい師匠をサポートしながら部屋のために尽くしたい。」

一門の文の里親方の話「荒戸部屋の申し入れを一門で検討した上、十分再建可能であることを確認した。部屋には有望な弟子たちの育成に集中してもらいたい。」

サラリーマンの魂の叫びシリーズ

会社で出世するだけか 人生なのか

加古川書房 米田 明著

荒戸部屋が経営破綻 一門で救済措置、師匠交代へ

第十六回本場所後の決算報告を見ると、一門や部屋における資金の格差が広がっていることが分かります。今出川一門を例に見てみると、最も資金力のあるのは、若ノ城部屋、二横綱をはじめ五人の関取を擁し、一度分家を果たしたにもかかわらず、手持ち資金は四千万円に届く勢いだ。次いで大乃森部屋だが現在関取は二名、しかし堅実な運営のおかげで資金的にはまだまだ余裕がある。

一方、今出川部屋は千三百万円で若ノ城部屋の三分の一以下だ。関取は一人しかおらず厳しい状況。師匠の今出川親方は理事を退いた。資金力が豊富な部屋は新弟子採用が活発に行き、将来的には分家して勢力拡大にも直結していく。やはり強い家が、つ部屋が発展し、協会内での影響力も強くなっていくのだ。

●前頭六 坂越海(二勝九敗) (引退の声に)「オ、辞めるなんて一言も言っていないから、オレから相撲を取ったら何も残らないから石にかじりついてでも現役を続けるからもう一愛宕山(六勝五敗)」

●前頭十一 書山(六勝五敗) 「いや、久しぶりの勝ち越し! 四場所ぶり? ずいぶん前なので忘れちゃったよ。」

●前頭十四 照葵(九勝二敗) (敢闘賞受賞)「自分でもびっくりです。まさか三賞が取れるなんて思ってもみませんでした。ここまで苦勞の連続でしたので...涙で言葉が詰まる。」

●前頭十五 近衛丸(三勝八敗) (場所後に引退を表明)「一番の思い出は第九回本場所の千秋楽で鞍ヶ嶽と引き分けた一番です。勝てば勝ち越したの悔しくて、悔しくて、その日の晩はひとりやけ酒食らってましたよ。でも楽しい紙相撲人生でした。今まで応援ありがとうございます。」

●前頭五 杉録(八勝三敗) 「自分としては大満足。師匠からも「よくやった」と褒めてもらったよ。入門したのはじめてだよ。師匠に褒められたのは、(笑)」

●前頭三 里見富士(一勝十敗) 「全敗しちゃうかと思った。九日目にやっと勝ってほっとしたよ。」

●前頭二 如月(五勝六敗) (星取が○○●●●●●●○○○) 「今場所は「晴れのち大雨のちまた晴れ」だったよね。二場所連続負け越しかあ。来場所こそは勝ち越したいね。」

広がる格差...

責任を取って師匠を辞任する荒戸親方